

# 先人の知恵から

## 41

かうんせりんぐるうむ かかし

河 岸 由 里 子

ここまで続けていると同じような諺を載せないようにと過去の諺を振り返ることも増えた。今回も「夕行から」以下の7つ。

- ・宝の持ち腐れ
- ・他弓挽く莫れたきゅうひ なか
- ・叩けよさらば開かれん
- ・ただより高いものは無い
- ・立つ鳥跡を濁さず
- ・蓼食う虫も好き好きたて
- ・楯の両面を見よ

### <宝の持ち腐れ>

すぐれた才能があるのにそれを活用しないことのたとえ。また、役に立つものを持っていながら、利用しないことのたとえ。折角の宝を手を持ったまま腐らせてしまう意から。

最近の子どもたちの中には、目立つことを嫌がる子が見受けられる。能力も高く、誇れるものをもっているにも関わらず、目立つといじめられるという恐怖感から、能力

を隠しているのだ。「能ある鷹は爪を隠す」とは言うが、折角持っている能力を発揮しないのは勿体ない。本当は体育が得意なのに、わざとあまりうまくない風を装ったり、算数が得意なのに、100点を取らないように操作したり……。小学校だけではなく、中学校や高校の生徒でもあえてやっていると聞くことがあるのだ。こんなことを子どもがするのは、本当に悲しいし、馬鹿げている。

可愛ければ妬まれ、運動が出来ても妬まれ、勉強が出来ても妬まれ、そしてこうした妬みがいじめに繋がるのである。

一人一人の良い面を先生方が認め、褒めるなどの行動があれば、だれもが褒められ、認められる学校であれば、妬みに繋がることは少なくなるのではないだろうか？

良い面をどんどん引き出し、宝を磨いていけるような学校であってほしいし、親子関係でも同様に、自分の子どもの良い面を褒めて伸ばし、輝かせてあげられるような関係性であってほしい。

そして、自信をもって自分の良い面、得意なことを出して、誇れるような子どもたち

であってほしい。そんな願いから、この諺を伝えている。

英語では・・・

Between treasure buried under the ground and wisdom kept hidden in the heart, there is no difference. (地中に埋められた宝物と胸中に秘められた英知の間には、何の差異もない。)

Waste of treasure. 又は、Waste of talent. 等とも表現される。

### ＜他<sup>た</sup>弓<sup>きゅう</sup>挽<sup>ひ</sup>く<sup>な</sup>莫<sup>な</sup>れ＞

他人のことに干渉してはいけないということ。たとえ。他人のことに気を取られることなく、自分自身の領域を守って自己の充実に勤めよということ。他人の弓は引くなという意から。

出典 無門関

他人のことはよく見えるものだし、自分のことを棚に上げて、他人のことをあれこれ言う人というのは今も昔も変わらずいる。他人のことを笑う前に、自分自身の言動を振り返るべきである。また、反対に、他人の眼ばかり気にして、自分を出せずにいる子もいる。こういう子にもこの諺を使う。

自分がしっかり自分らしく、正しく、一生懸命頑張っていれば、だれに指さされることもないし、指さされたとしても気にする必要もないのだ。人の目を気にするあまり動けなくなるのは勿体ない。こういう子が結構いるが、人の目というのは結局自分自身の視線であると伝え、無駄なエネルギーを使っていると説明している。

小学校などではお世話焼きの子というのがいる。そういう子に限って、自分のことがお留守になる。お世話をするので、自分の存在感を得ているので、それをやめることは難しい。それでもやっぱり自分のことを先にするよう伝えざるを得ないだろう。学校では「人のことは良いから自分のことをしなさい」と先生方から言われる。助けてあげることが悪いことではないが、助けてあげることで、本人が出来ることを奪ってしまう可能性について理解させることも必要だろう。

子どもだけではなく、大人も同様である。他人のことに首を突っ込む人、余計なお世話を焼く人などである。他人は他人、自分は自分で生きていくことが出来ればよいのだが、他人のことに振り回されている人もいる。そんな人たちにこの諺を伝えている。

### ＜叩<sup>たた</sup>けよさらば開<sup>ひら</sup>かれん＞

何事もじっと待っているのではなく、積極的に努力することを進める教え。ひたすら待ち続けても神の国の門は開かれないが、こちらから進んで叩けばきっと開かれるという意から。

出典 新約聖書マタイ伝

友達が出来ないと嘆いている子がいる。自分からは行けず、相手が声をかけてくれる、誘ってくれるのを待っているのだ。口では「友達などいらない、一人の方が楽だ！」などと言ってはいるが、実は寂しくて、友達が欲しくて仕方がないのだ。

そんな子に、聖書の言葉だけだと断りつつこの諺を伝えている。やってみなければ

わからないことも多い。まずは友達になりたい子に声をかけてみよう。付いてはこんな風に声をかけてみたらなどと話し合う。また、こういう子に限って自分とまったく合点もない子と仲良くなりたがったりするので、そこも要検討である。相手の気立ても考えながら、なるべく失敗しないように、この子が傷つかないように最大限気を付けて考えていく。その結果、上手くいけば、友達を作る自信にもなる。上手くいかない時は慰めながら、次のアタックを考える。

門を叩くには勇気がいる。その勇気を持たせてあげるのも我々支援者の務めである。

母親たちも、同様に悩んでいる。公園デビューや幼稚園、小学校でのママ友など、同じことが起きている。一人は寂しい。でも傷つくのは怖い。人関係で傷ついた経験から、人と関わることが怖いのである。対人トラウマを処理して、成長させることが出来れば、変化していけるのだ。

母親たちにも、子どもたちにもこの諺が伝わると良いなと思っている。

英語では・・・

Knock, and it shall be opened unto you.

(門を叩け、さらば開かれん)

#### <ただより高いものは無い>

ただで物をもらおうと、お返しに金がかかったり、無理な頼み事も聞かねばならなくなったりして、かえって代償が高くつくということ。

今の時代、SNSとかスマホの広告で、「今

ならただ」とか今なら何%オフとか、キャッチーなフレーズが目にとまる。そういうものに、引っかかるとろくなことにはならない。子どもたちに注意してもらいたくて、この諺を使っている。

昔も今も変わらず、ただって怖い！！

英語では・・・

Nothing costs so much as what is given us.

(貰い物くらいたかくつくものはない。)

#### <立つ鳥跡を濁さず>

立ち去る者は、あとを見苦しくしないよう綺麗にしておくべきであるという戒め。

また、引き際が潔くきれいであることのとえ。水鳥が飛び立った後の水辺は、濁ることなく清く澄んでいるという意から。

「飛ぶ鳥跡を濁さず」ともいう。

卒業シーズンになると、教室や下駄箱等、今まで使っていた場所をきれいに掃除する。これは日本のとても良い風習だと思う。引っ越しの時も同様に、きれいに掃除し、ごみ一つ残さないようにする。勿論業者に依頼する人も増えた。最近は何をいろいろ残して、処分しておいてくださいという人も増えたという。

もう、50年くらい前の話になるが、かつてアメリカでお世話になったホストファミリーのパパとママが日本に来た。彼らがびっくりしたのは、どこの路地もきれいに掃除されていることだった。家の周りにはきちんと箒で掃き清める。そんな時代だった。

最近では、平気でごみを路上に置いていく

人、空き缶やペットボトルを投げていく人が増えた。誰がやっているのかはわからないが、観光地でもホテルでも、「立つ鳥跡を濁さず」を心掛けたいものだ。

### < 蓼<sup>たて</sup>食う虫も好き好き >

人の好みは様々で、理解しがたいような多様性を持っているものであるということ。よりによって、辛い蓼の葉を好んで食べる虫がいるという意から。他人の悪趣味について言うことが多い。

これは有名なので知っている人も多いだろう。人の好みは様々ということである。蜘蛛が大好きな人もいれば、蛇やトカゲが好きな人もいる。猫が好きな人もいれば犬が好きな人もいる。何が好きでも構わない。食べ物も好き嫌いは誰でもある。

何が好きでも、だれが好きでも、それについてとやかく言うものではないということである。

英語では・・・

Every man as he loves. (めいめいお気に召すままに)

Tastes differ. (人の趣味はそれぞれ異なる。)

### < 楯の両面を見よ >

物事には表と裏があるから、一面からだけ見るのではなく、表と裏の両面をじっくり観察した上で正しい判断をせよという教え。

道で出会った二人の騎士が、木にかけて

ある楯の片面をそれぞれ見て「これは金の楯だ」「いや、銀の楯だ」と言い争い、あわや決闘になろうとしたところへ、別の騎士が通りかかり「この楯は一面が金でもう一面は銀ではないか」と言ったという西洋の昔話から。

英語では・・・

Look at the both sides of the shield.

### 出典説明

#### 無門関・・・一巻

宋代の禅の書。臨濟宗の僧無門慧開<sup>むもん えかい</sup>の著。完成は1228年。悟りの話題四十八を集め、評釈を加えたもの。「碧巖録」「臨濟録」<sup>へきがんろく りんざいろく</sup>とともに、禅宗で重んじられる書。

#### 新約聖書マタイ伝・・・

新約聖書におさめられた四つの福音書の一つ。伝統的に、「マタイによる福音書」が新約聖書の巻頭におさめられている。第7章に、「求めよさらば与えられん、叩けよさらば開かれん」とある。ひたすら神に祈り、救いを求めれば、神は必ず答えてくださる。積極的に努力すれば必ず目的を達成することが出来る。